

厚生労働科学研究費補助金

がん臨床研究事業

がん患者の心のケア及び医療相談等のあり方に関する研究

平成 18 年度 総括・分担研究報告書

主任研究者 山口 建

平成 19(2007)年 3 月

平成18年度分担研究報告書

緩和医療対象者における患者・家族の心のケアに関する調査研究

分担研究者 木村 秀幸 岡山済生会総合病院副院長・ホスピス長

研究要旨

がん治療後再発し、終末期にある患者・家族の苦痛をやわらげるためには、終末期における状態の説明のしかたや接し方が重要な要素となる。スタッフが自分自身の性格のタイプを自覚した上で、患者・家族の性格のタイプ(センター)に合わせた、納得しやすい説明のしかたと支援技術の確立と、より簡便なタイプチェックの開発並びにその普及方法の確立が課題であることが明らかになった。

A. 研究目的

がんの治療後再発し、最終的に死に至る患者に対する緩和ケアは、最近かなり行われるようになってきた。しかし、その家族が抱える様々な問題に対しては、まだ充分とはいえない。本研究では、主に終末期にあるがん患者の家族のケアに焦点を当て、調査を行い、支援方法の開発・確立を目的とする。

この研究により、末期状態にある患者とその家族が残された大切な時を平穏に過ごすことができ、患者の死後も家族の心の平安につながることが期待される。

B. 研究方法

末期状態にある患者と家族の苦痛をやわらげるため、終末期における状況の説明方法やケア方法の確性を、緩和ケア病棟並びに一般病棟に入院中のがん患者と家族並びにスタッフを対象として調査を行った。

(倫理面の配慮)

患者・家族へのインフォームドコンセントを得て行った。

C. 研究結果

終末期にある患者・家族の苦痛をやわらげるためのスタッフによる説明のしかたや接し方により、安心感・満足度に違いがあることがわかった。

エニアグラムのタイプ5 (head center) のスタッフがタイプ2 (heart center) 患者さんに説明したとき、此の患者さんは自分の気持ちを聴いて欲しかったのに説明ばかりして聴いてくれなかったと言われて、このスタッフは患者が理解できないと言う。また、このタイプ2 (このタイプは人の役に立つということ、頑張れる) の患者さんが学生ボランティアからお花の活け方を尋ねられて、それを教えることで心の満足感を得た。

患者さんとスタッフ、それぞれのタイプに合わせて説明・ケアをすることの重要性が明らかになった。

D. 考察

終末期にある患者の状態を患者と家族に説明し、ケアする際、どのように説明し、接していくかは重要なことである。患者・家族の性格(エニアグラムのタイプ)により受け取り方が異なっており、しかも、それにスタッフのタイプによる相互関係も出てくる。人は9つのタイプがあるとされており、45通りにもなるが、これでは細かすぎて実際的ではない。大きくセンターごとに分けると、heart center, head center と guts center の3つになり、6通りに集約される。人は、他人も自分と同じように考える(思う)ものだと考えがちであるが、人は異なる立場や考え方を持っているということを認識することの重要性が示唆された。今回使用したエニアグラムのタイプチェック表からだけでは、タイプの適中率は6~7割である。今後は、より精度が高くしかも簡便なタイプチェック方法とそれに準拠した支援技術の確立が望まれる。

E. 結論

終末期にある患者の状態を患者・家族にわかり易く説明し、満足してもらうために、患者・家族並びにスタッフの性格(エニアグラムのタイプ)を考慮することが大切であり、その啓蒙・普及の重要性が明らかになった。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 学会発表

○市村智美, 槌田洋子, 木村秀幸, 石原辰彦, 金田美佐緒: 在宅ケアへの不安が強かった家族とのかかわりを振り返って。第7回日本死の臨床研究会・中国四国支部研究会, 平18. 5月, 岡山。

○藤井貴美恵, 槌田洋子, 大塚千秋, 石原辰彦, 木村秀幸: ターミナル期にある患者を持つ家族の在宅療養への不安について。第30回日本死の臨床研究会年次大会, 平18. 11月, 大阪。(死の臨床, 29: 196, 2006)

○畠尚子, 槌田洋子, 大塚千秋, 石原辰彦, 木村秀幸: 緩和ケアにおける癌患者のオピオイドに対する思い。第30回日本死の臨床研究会年次大会, 平18. 11月, 大阪。(死の臨床, 29: 252, 2006)

2. 論文発表

木村秀幸, 院内緩和ケアチームの現状と問題点, 緩和医療研究会誌, 14, 23: 37-52, 2007

H. 知的財産権の出現・登録状況 (予定含)

なし